

福知山花火大会屋台爆発炎上事故によせて



<概要>

福知山市 人口約 8 万。 1 年で一番にぎわうお盆の花火大会。

近年では、約 11 万の人出となる。

花火大会の始まる午後 7 時 30 分の直前、河川敷に並ぶ約 170 店の屋台のうちベビーカステラを販売する屋台が突然、爆発して炎上した。

死傷者・・ 58 人（3 人の方が亡くなられた）

福知山支部 吉田 理眞子（黒庄薬局）

8 月 15 日、楽しみの花火打ち上げ直前、予期せぬ爆発が起こり、事故の詳細が判らないまま、やけどの人々が暗がりの中、搬送される事になりました。

現場近くには、花火事故を想定して消防車、救急車が待機しており、大勢の見物人による遅れはありましたが、行動は早かったように思います。

店の横に大型搬送バスが来るので、やけどを負われた方が次々来られ、ご近所みんなで氷や井戸水で患部を冷やすお手伝いをしました。家族で負傷された方が多く、炎が目の前に広がったショックなのか、子ども達は呆然自失の様子で、痛みを訴えることもなく処置を受けていました。私に関わった時間は 20 分もないくらいで、「大丈夫。治るからね」と繰り返し言いながら冷やす事しかできませんでした。後になって事の深刻さを知り、びっくりしたのですが、暗がりだった事、周りに大勢の人がいた事で、まだ冷静でいられたと思います。

やけどは、時間とともに悪化する場合も多く、まだ多くの方が入院されていると聞いています。やけどの痛み、傷に加え、子ども達が受けた心の後遺症を心配します。死の恐怖を体験してしまったことは、本当にかわいそうでなりません。心と体のどちらも適切な治療が行われます事を願っております。

この事故は人災です。こうしておけば良かったのにと誰もが悔やまれる人災です。急ぐ時ほど冷静に落ち着いて行動することの必要性を強く考えさせられました。

2 度とこのような悲惨な事故が起こらないよう、皆が責任ある行動をとりたいたいものです。私自身、この件でいろいろと報道され反響の大きさに驚いています。現場で避難誘導された方、救急隊、医療チームの方々の対応に比べ、わずかな関わりですのに、このような機会をいただき恐縮しています。

終わりに、当事者の皆様の 1 日も早い回復をお祈りしていますとともに、地域の皆様に信頼していただける薬剤師でいたいと思っています。

<両丹日日新聞より>

平成 25 年 9 月 20 日 福知山市民会館

「災害・事故後の心のケア」講演会 福知山市主催

京都府精神保健福祉総合センター所長

精神科医 土田 英人 氏

心や体の変化は、異常な状況に対する正常な反応である。

不眠、イライラ、食欲不振、頭痛など。また、憤りを紛らわせるために、度をこえた飲酒、喫煙、人の反感や怒りを買う行動が現れることがある。

子どもも、「機嫌が悪い」「急に素直になる」「現実でないことを言い出す」

「免疫力が落ち風邪をひきやすくなる」などの症状が現れる。

こんな時は、「お父さんやお母さんが守ってあげるよ」と言った言葉がけや話を聞くなどの対処をする。

また、「がんばれ」「命があったんだからよかったと思って」など、相手のことを思って掛けた言葉が、かえって傷つけることになる場合がある。頭に浮かんでもこういう言葉は、使わない。傷を受けた人が話すことは、気持ちが楽になるものだが、話す、話さないは、本人の意志。事故から 1 か月しか経っていないのですべて語ることは、難しい。今なら話せるかなというときに話す。また、「乗り越えないといけない」「話すのは恥ずかしい」と思わず、症状が長引いたり、気になることがあれば受診するよう勧めた。

*市教委報告事例:微熱がでた。ガスコンロの音や火におびえる様子がある。テレビなどの取材で不安定。

文責 京都府学校薬剤師会 守谷まさ子